クスサン

春から初夏にクリ，クルミ，トチノキ，ウダイカンバなどの葉を食べる大形の毛虫（幼虫）．最大長約80mm．小さなときは黒く，毛が少ない．集団でいることが多い．成長すると水色の長い毛がびっしりと生える．

幼虫はシラガタロウあるいはクリケムシと呼ばれることがある．

街路樹のトチノキ，果樹園のクリやクルミでしばしば多発する．天然林のウダイカンバやトチノキで多発することもある．

1．若齢幼虫，体長8mm．1994/5/28．
美唄市，クリ．

2．中齢幼虫，体長23mm．1994/6/7．
1の幼虫を飼育．

3．終齢幼虫，体長70mm．1994/6/22．
1の幼虫を飼育．

4．雌成虫，体長30mm．1の幼虫を飼育．

5．卵塊．2000/4/30．美唄市，クリの幹上．

6．繭．2001/8/1．美唄市，ウダイカンバ幹上．

【学名】 *Caligula japonica*

【分類】 チョウ目（Lepidoptera），ヤママユガ科（Saturniidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州，対馬；シベリア南東部.

【生態】

宿主： イチョウ，ヤナギ科，クルミ科，ウダイカンバ，ブナ科（クリなど），ニレ科，バラ科（ウメ，サクラなど），ミズキ，ヌルデ，トチノキなど.

年１回発生．卵越冬．幼虫は早春に孵化する．小さなうちは集団でいる．成長すると単独で葉を食害する．７月頃に樹上や下草上で茶色の網目状の繭を作り蛹になる.

９～１０月，繭から蛾（成虫）が羽化する．雌成虫は数十から数百個の卵を幹上にまとめて産む.

７．ウダイカンバの被害．2001/8/1. 美唄市.
奥のシラカンバは被害がなかった.

【被害と防除】

森林や街路樹のトチノキ，果樹園のクリやクルミの害虫として古くから知られている.

北海道では最近になって森林のウダイカンバで多発がするようになった（文献：1992）．森林での被害は従来，１～２年で終わっている．食害により木が枯れた記録はなく，食害後１ヶ月もすれば緑を回復する．森林では普通，防除は必要とされない.

果樹や街路樹では秋から早春に幹上の卵塊をみつけて取り除くか，木槌などで叩きつぶすのが有効である.

春から夏に幼虫や繭をみつけたら，取り除いて土に埋める．繭は幹の隙間や巻いた葉の中に作られる.

農薬による駆除が必要と判断される場合，クスサン用の農薬として樹木用のDEP乳剤がある．農薬は取扱説明書に従って使用すること．薬剤散布にあたっては通行人や近くの住民等に十分配慮すること.

【文献】

1977．奥野孝夫，田中寛，木村裕．原色樹木病害虫図鑑:I-VIII，1-365，pls 1-64．保育社，大阪.

1982．井上寛ほか．日本産蛾類大図鑑．Vol.　１：1-968；Vol.　2：1-556，pls 1-392．講談社，東京.

1987．杉敏郎，編集．日本産蛾類生態図鑑：1-453，pls 1-120．講談社，東京.

*1992．福山研二，前藤薫，東浦康友，原秀穂．平成３年度に北海道に発生した森林昆虫．北方林業44：271-274．（ウダイカンバで初めての多発記録）

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」でみることができます.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

クスサン yamamayu/kususan/kaisetu.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，1996/2/2.

1yochu1.jpg，1yochu2.jpg，1yochu3.jpg，1seichu.jpg，tamago.jpg，2mayu.jpg，2higai.jpg

「写真１～７」原秀穂，北海道立林業試験場，1994-2001.